

長洲小だより 第5号

発行 長洲町立長洲小学校
長洲町長洲1776番地
Tel 0968(78)0109 fax (78)7103



令和4年6月17日(金)

プール開き

今週から水泳学習が始まりました。水泳がある日は子供達も朝から楽しみにしている様子です。5月31日(火)に、長洲友の会の皆様のご厚意でプール掃除のお手伝いを頂き、その後、3年生以上の子供達が協力して磨き上げました。その時の様子を紹介します。

6月11日(土)に九州地方が梅雨入りしました。その影響からでしょうか、気温が下がり、それに伴って水温も低い状況です。学校ではしっかり健康観察を行いながら学習を進めて参りますが、ご家庭でも日頃から体調を整えて頂きます様お願い致します。

水泳学習は早く泳げるようになることも大切ですが、何より長く泳げる(浮かび続ける)ようになることが命を守ることに直結します。長洲町は海に面していますので、特に大切なことだと思います。私は学生時代に2km泳いだことがあります。時間にして1時間10分ほどです。これが目安になるかどうかは別として、健康体力の向上にも水泳は役立ちますので、シーズン中はしっかりと泳ぎ込んで欲しいと思っています。



【 プール掃除の様子(右は長洲友の会の皆様) 】

不審者対応避難訓練

21年前の大阪で、とても悲しいつらい事件がありました。小学校に不審者が侵入し、凶行に走った事件です。現職教師に対し、非常に大きな衝撃と危機管理を問い直す機会を与えた事件でした。あれから長い年月が流れ、人々の記憶から消えてしまふことが最も大きな危機ではないでしょうか。

長洲小学校では16日(木)に、不審者対応避難訓練を行いました。本校でも事件が起こる可能性が無いわけではないのです。起こり得る危機に対して危機感を共有し、子供達も教職員も、臨機応変に行動できる集団でありたいと思っています。



【 不審者対応の様子 】

梅雨晴れの水泳学習
先週は梅雨入り後でしたが、晴れ間がのぞく日が数日ありました。よく晴れていた午前中、プールから歓声が聞こえていたので行ってみると、4年生の子供達が学習していました。バディを組んで、達磨浮き、伏し浮き、蹴伸び等の基本的な動きをしながら水に慣れて、その後は泳力調査をしています。水泳学習が終わるころの調査で、どのくらい泳げるようになったのかとても楽しみです。
※保護者の皆様、健康チェックカードの記入漏れや忘れ物が無いようお願い致します。



【 水慣れの様子 】

長洲町探検

学習の一環で、3年生が町探検に出かけました。多くの気づきがあったようです。小学校から北方向と南方向とに出かけました。

四王子宮等の史跡、多くの商店、量販店、公的機関、福祉施設、金融機関等々、長洲町のランドマークに改めて気が付きました。「百聞は一見に如かず」の学習となりました。

また、2年生はフェリーターミナルの見学に行きました。ターミナルで働く方にインタビューして、町のシンボリックな有明フェリーを、更に身近に感じることができたようです。



【 四王子神社にて 】

コラム 「言葉と人生」

「思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから
言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから
行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから
習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから
性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから」

マザー・テレサ

マザー・テレサのこの言葉は、実に多くの示唆を与えてくれる。思考、すなわち考え方が運命になっていくというのだ。いわゆる「気の持ち様」で、自分の運命は変わるということである。実は私もこの考え方によって、卑屈だった若い時の自分から脱却し、人生が少し変わったと思う者の一人である。

もう少しかみ砕いてみよう。運命を形作る要素は「思考」だけに限らず、他の「言葉」「行動」「習慣」「性格」であるともいえる。しかもそれは密接につながっているとも考えられる。私は「思考」に加え「言葉」と「行動」をセットで変えて、「人生」が変わったように思う。特に「言葉」は周囲が認識しやすいため、最も重要だと思う。

思っている以上に、物事はシンプルだ。我々の身体は「食べたもの」で作られると聞く。転じて個人の「考え方」は、個人が接してきた「言葉」で作られているととらえることができるのではないかとすれば、過去に個人が持っていた考え方は、「今までどんな言葉を発してきたか」、「今までどんな言葉をかけられてきたか」によって作られたものだ。故に、これからの自分の考え方を変えていくためには、自分自身が発する言葉を選び、そして学ぶ言葉を選ぶことが重要であるのだ。これによって、考え方というのは変わるのだから。

考え方が変われば、仕事や人生をつまらないものと感じている人も、最高に楽しいものと感じることもできるようになるのではないだろうか。要は気の持ち様、言い換えるならば「個人の意識」だ。現状を変えていくためには「意識改革」が重要であることに気づく。これは、考え方や誰かに話す言葉や意識だけでなく、頭の中で巡っている言葉や意識にも注意が必要だ。むしろ、頭の中の言葉や意識の方が重要かもしれない。私の場合、頭の中で「自分はついでない」「自分には才能がない」「能力がない」「人生つまらない」「やっつけられない」「最悪だ」…、そういう風に思っていた若い頃は自然と、悪い方向に向かっていったように思う。

そう簡単に「思考」や「言葉」は変えられないと言われる方もいるかもしれない。そんなときは「書く」ことによるアウトプットが良い。意外と簡単な方法で言葉は変えることができる。私は書道を嗜む関係で、アウトプットがしやすいのかもかもしれない。書き出した言葉を眺めて、自分自身として再認識していたのだ。そして、自戒していた。そういったことを、20年ほど続けている。この20年私は「出来ません」という言葉はできるだけ使わないようにしてきた。可能性を自ら閉じてしまうような気がしたからだ。やり方はわからなくてもできる方法は必ずあるはず。だから「難しい」という言葉は使っても、「出来ない」という言葉はできるだけ使わないようにしている。

小学生の発達段階で最も気を付けなければならないのは「言葉」だと思う。正しい言葉、優しい言葉、美しい言葉を遣うことによって、子供達の将来が決まってしまうからだ。だからこそ、子供達に最も近い言語環境である私達大人が、正しい、優しい、美しい言葉を遣わなければならない。子は親（大人）の鑑である。我々大人が、より良い人生のためにより良い言葉を遣っていききたいものだ。